

懸賞論文佳作

在中コリアンの現状および人材育成に関する研究 ——韓国系企業内における在中コリアンの 戦略的な活用の事例を中心に——

名古屋大学（国際開発）

姜海月

要 旨

本稿は中国進出韓国系企業の経営において重要な役割を果たしている朝鮮族を研究対象にして、実態を解明し、戦略的な活用の可能性を検討したものである。

90年代の韓国経済はバブル気味であった、賃金の大幅上昇・物流コスト・金利などの生産コストの増加が著しく、また労働紛争も頻発していた。そのため、各企業は国内投資よりは海外投資を選好する傾向が強くなっていた。特に、1992年8月、中韓国交正常化以降、韓国企業は中国へ注目し始め、対中直接投資は急速に増加し始める。一方で、これらの企業は、低廉な労働力の活用を目的とした労働集約型の製造業が大部分であり、多くの企業が短期間でしっかりしたフィジビリティスタディをせずに急いで進出した結果、その後遺症も深刻なレベルに達している。

ここで、特に注目したいことは、韓国企業の対中国進出は中小企業が中心であり、地理的には朝鮮族が多く居住している環渤海地域や東北三省に集中していることである。経営資源の乏しい中小企業が現地経営に伴うリスクを低減するため、朝鮮族を頼りに中国進出を行っている企業が多い。しかし、問題は最も肝心の朝鮮族との間にコンフリクトが多発し、撤退や経営不振を余儀なくされるケースがあまりにも多いということである。そこで、筆者は韓国系企業における中間管理層として活躍している朝鮮族に注目した。1) 中国進出韓国中小企業は現地での異質な人材を如何にマネジメントしてきたか 2) 朝鮮族は経済の国際化道程における経営資源としてどのような役割を持ち得るのか 3) 彼達が経営資源としての独自の機能を持ち得るのならば、それはいかに戦略的に活用され得るか? これらの問題を解明するために、環渤海地域や東北三省に進出している韓国系製造業を中心に16社を訪問し、詳細の実地調査を行った。

本稿では、まず朝鮮族の現状を紹介し、次に現地調査の事例を持って韓国系企業内の朝鮮族の役割を明らかにした。
